

平成19年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

文部科学省は、今年4月に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を10月末に公表しました。市教育委員会では、市内の児童生徒の学力の状況を知っていただくために市民の皆さんに広くお知らせします。

なお、この「全国学力・学習状況調査」は、あくまで児童生徒が身に付けるべき学力の一部を調査したものです。

●調査の目的

- 1 全国的な義務教育の機会均等と、その水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 各教育委員会・学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

●調査の内容

1 教科に関する調査

- 主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）
 - ・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
 - ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など
- 主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）
 - ・知識、技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容
 - ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などに関わる内容 など

2 質問紙調査（児童生徒に対する調査）

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査



●教科に関する調査の結果

教科	結果・課題	改善のポイント（努力を要する領域）
小学校国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「国語A」の市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率並みであり、今回出題された学習内容については、おおむね身に付けていると考えられます。 ○「国語B」の市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率とほぼ同じではあるものの、全国の傾向と同様、知識・技能を活用する力に課題があります。 	<p>『話すこと・聞くこと』</p> <p>言葉による理解だけでなく、司会やインタビューの経験を重ねるなど体験的な活動を積極的に取り入れる必要があります。</p> <p>『読むこと』</p> <p>読書量を増やすとともに、図・表等の資料を活用する力を高めるため、自ら問題を見つけ、書くことをとおして考える活動を充実する必要があります。</p>
小学校算数	<ul style="list-style-type: none"> ○「算数A」の市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率にほぼ近く、今回出題された学習内容については、おおむね身に付けていると考えられます。 ○「算数B」の市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率より若干低く、全国の傾向と同様、知識・技能を活用する力に課題があります。 	<p>『数と計算』</p> <p>数の意味や大きさを調べ、それを表したり、立式や計算の工夫をしたりする活動を充実する必要があります。</p> <p>『数量関係』</p> <p>与えられた資料から、問題解決のために必要な情報を選択して考える活動を充実する必要があります。</p>

教科	結果・課題	改善のポイント（努力を要する領域）
中学校国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「国語A」の市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率並みであり、今回出題された学習内容については、おおむね身に付けていると考えられます。 ○「国語B」の市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率より若干低く、全国の傾向と同様、知識・技能を活用する力を、更に身に付ける必要があります。 	<p>『読むこと』</p> <p>読書量を増やすとともに、描写や表現に着目して内容をとらえたり、様々な文章の内容や構成、表現に注意しながら読み取ったり、情報を活用したりする活動を充実する必要があります。</p> <p>『言語事項』</p> <p>正しい読みや書きについて、更に繰り返し練習する必要があります。</p>
中学校数学	<ul style="list-style-type: none"> ○「数学A」の市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率より低く、基礎的・基本的な知識・技能を、更に身に付ける必要があります。 ○「数学B」の市内の生徒の平均正答率は、全国の平均正答率より低く、全国の傾向と同様、知識・技能を活用する力に課題があります。 	<p>『数と式』</p> <p>数学の基盤となる領域であるので、徹底した定着を図り、文字式が表す意味を具体的な事象で理解し、見通しを持って説明する活動を充実する必要があります。</p> <p>『図形』</p> <p>実験や実測をとおした活動や証明を構想し、自分の考えを深め、正しく説明する活動を充実する必要があります。</p> <p>『数量関係』</p> <p>実験をとおして確率を理解する活動や、数量関係を数学的に表現したり、説明したりする活動を充実する必要があります。</p>

※ [平均正答率] = 問題数に対する正答数の割合 (%) が正答率で、児童及び生徒全体の正答率の平均が平均正答率です。

●「児童生徒質問紙調査」と「教科に関する調査」の総合的な分析結果等

1 主な分析結果・傾向

- 「朝食を毎日食べている」「就寝、起床の時間が決まっている」など、食生活や生活のリズムが安定・確立している児童生徒は、そうでない児童生徒より、教科の正答率が高い傾向にあります。
- 「ふだん（月曜日から金曜日）、夕食を家族と一緒に食べる」と答えた児童生徒は、そうでない児童生徒より、教科の正答率が高い傾向にあります。
- 運動部に所属している生徒は、そうでない生徒より、教科の正答率が高い傾向にあります。ただし、1日当たりの運動・スポーツの時間が3時間を超えると、正答率が低くなる傾向にあります。
- 勉強の大切さや必要性を感じている児童生徒は、そうでない児童生徒より、教科の正答率が高い傾向にあります。

- 「学校の授業以外での勉強の時間」が多い児童生徒は、そうでない児童生徒より、教科の正答率が高い傾向にあります。

2 改善のポイント

- 児童生徒に対しては、家庭科、保健体育科、学級活動等で、食生活や生活のリズム等の改善が図られるよう指導の充実に努めます。保護者に対しては、学校便り、保健便り、学校保健委員会、家庭教育学級、教育講演会等によって、食生活や生活のリズムの安定・確立等について啓発に一層努めます。また、市教育委員会が取り組んでいる「かのや宅習1・2運動」（決まった時間に決まった場所で、小学生は1時間、中学生は2時間勉強する運動）や県教育委員会が推奨している「早寝・早起き・朝ごはん」などについても、市PTA連絡協議会等諸関係団体とも連携して、家庭への一層の啓発を行います。

◆改善のポイントについては、重点的な指導や学力の定着を図るための工夫が必要であることから、各学校において、家庭や各種団体とも連携しながら、具体的な手だてを積極的に講じていきます。

【問い合わせ】市学校教育課 ☎ 0994-31-1137